



株式会社バードアイ
 住所 岐阜市芋島 2-9-5
 TEL 058-213-3385

空からの視点が拓く、岐阜のビジネスと安全の未来



株式会社バードアイ
 代表取締役 松井 浩二さん

岐阜の豊かな自然と、長年培った設備メンテナンスの経験が交差する場所に、株式会社バードアイの原点があります。代表の松井 浩二さんは、前職で高所点検や外壁メンテナンスといった、常に危険と隣り合わせの現場を長年見つめてきました。当時は現場でドローンが全く普及していなかった時代でしたが、「足場を組む前にドローンで点検ができれば、どれほどのリスクとコストを低減できるか」という確信が、同社を設立させる大きな原動力となりました。

前職での施主や業者との調整、コスト管理、安全対策の経験が、現在のスクール運営やコンサルティングの血肉となっています。

ドローンを「安全に落とす」技術の重要性

現在、ドローン業界は民間資格から国家資格へと大きく舵を切っています。松井さんが運営する「DSA岐阜校」は、この変化にいち早く対応し、国土交通省認定の講習機関として、ビジネスパーソンに特化した指導を行っています。かつての民間資格時代は、趣味の延長としての受講も少なくありませんでしたが、国家資格化以降は40代から60代のセカンドキャリアを見据えた層や、企業からの派遣が中心となり、会場には常に心地よい緊張感が漂っています。

DSA岐阜校の最大の特徴は、講習の約7／8割を技術習得に割く、徹底した現場至上主義にあります。松井さんは、「ドローンは100％落ちるものである」という厳しい現実を繰り返し受講生に説きます。「飛ばすことだけではなく、どう安全に落とすか。飛行中にトラブルが起きた際、瞬時にどう判断し、リスクを最小限に抑えるか。当校では、あえて『落とす勇氣』を教えています」と松井さんは語ります。この思想の背景には、ラジコンの延長線上にある「遊び」ではなく、一つのミスが大

きな事故や法令違反に繋がる「ビジネスツール」としての責任感があります。

産業利用において、ドローンは劇的な変化をもたらしています。足場設置が不要になる高所点検や、数分で完了する農薬散布、危険な災害現場の調査など、作業効率の向上とコスト削減、そして何より人命のリスクヘッジにおいて、その価値は計り知れません。しかし、普及に伴い「法規制」というハードルも顕在化しています。松井さんは、多くの人が航空法ばかりを気にすることに警鐘を鳴らします。実際には航空法をクリアしていても、土地所有者の許可や市町村の条例、さらには第三者の上空飛行禁止といった、重層的なルールが存在します。

「技能証明を取れば何でもできる」という誤解を解き、赤信号を渡らないのと同じレベルでの法令遵守（コンプライアンス）を徹底させること。これこそが、同社が提供する安全管理と法令遵守の体制構築支援の根幹です。単に免許を発行して終わりにするのではなく、各企業が抱える「導入のきっかけづくり」や「既存業者との調整」といった実務上のしがらみまでを考慮したアドバイスをを行っています。

現場で実際に汗を流してきた松井さんだからこそ、ビジネスの現場でドローンを走らせるための「作法」を、受講生やクライアントに丁寧に伝授できるのです。

さらに松井さんは、現在のドローン運用における「自己都合の解釈」の危険性を強調します。空の世界では、自分の機体がどこにあり、周囲に何が飛んでいるかを把握するのは容易ではありません。気づかないうちに進入禁止エリアに入ってしまう、あるいは「これくらいなら大丈夫だろう」という慢心が事故を招きます。松井さんはスタッフや受講生に対し、常に「今ここで何かが起きたらどうするか」という思考を止めないよう、徹底した意識改革を求めています。

「鳥の目」と、共に創る未来のインフラ

「ドローンの活用がなかなか進まないのが歯がゆい」と松井さんは本音を漏らします。多くの企業がドローンの有用性を認めつつも、具体的にどう事業に落とし込むべきか、あるいは万が一の事故をどう防ぐかという不安から、二の足を踏んでいる現状があります。バードアイが目指す中長期的なビジョンは、単なるスクールの枠を超え、

岐阜県内におけるドローン活用の「総合相談窓口」としての地位を確立することです。

松井さんは現在、自身が所属するNPO法人の活動を通じて岐阜県警との連携や地域の防犯、災害対策にも深く関わっています。山間部が多く、土砂災害や水害のリスクも抱える岐阜県において、ドローンは「もう一つの目」として、俯瞰的な視点から地域の安全を守る重要なインフラになり得ます。例えば、災害発生時の迅速な状況把握や、行方不明者の捜索、あるいは小学生への教育を通じた科学的好奇心の醸成など、ドローンが解決できる地域課題は枚挙にいとまがありません。さらに、農業の高齢化が加速する中、近隣の農地をまとめてドローンで農薬散布するといった、地域コミュニティに密着した課題解決も視野に入れています。

また、松井さんはドローンがもたらす「感動」が、地域の活力を引き出す鍵になると信じています。社名である「バードアイ（鳥の目）」には、物事を高い視点から捉えるという意味に加え、空からの未知なる映像に触れた時の純粋な驚きを共有したいという願いが込められています。この感動体験こそが、旧態依然とした業務フローに風穴

を開け、新しいビジネスチャンスを生み出す原動力となります。

「免許を取って卒業で終わらせたくない」というのが松井さんの強いこだわりです。卒業生がそれぞれの業種に戻った際、実際にドローンを飛ばし続けられるよう、情報の横展開やコミュニティ作りを強化していく方針です。特に、免許は取得したものの活用法に悩む「ペーパーパイパー」を減らすため、気軽に相談に訪れ、練習を継続できる環境を整えることが、地域全体の技術底上げに繋がると考えています。

これからドローンを志す方々に対し、松井さんは「まずは知識と技術を確実に身につけ、とにかく飛ばして経験を積んでほしい。単に飛ばせるだけでは業界に何も生まれません。その先のビジネスを

見据えてほしい」と強く呼びかけます。同社は今後も、岐阜の企業がドローンを「優秀な道具」として当たり前前に使いこなし、事業拡大とリスクヘッジを両立できる環境作りを支援し続けます。

「安全に飛ばし、安全に落とす」という覚悟。そして、空からの視点で地元・岐阜を再発見する好奇心。株式会社バードアイは、その両輪を持って、岐阜のビジネスシーンをはるか上空から力強く牽引していくことでしょう。何から始めればよいか迷っている経営者の皆様は、ぜひ一度、その扉を叩き、松井さんが語る「新しい世界」に触れてみてください。ドローンという新たな「目」を持つことで、これまでのビジネスの景色が、きっと違って見えるはずです。

